

鹿児島大学 大学院理工学研究科  
グローバル人材育成支援室  
令和 3 年度活動報告書  
Global Development Office  
2021 Annual Report

令和 4 年 4 月 1 日  
鹿児島大学大学院 理工学研究科  
グローバル人材育成支援室



Global Development Office (GDO) ミッション: 鹿児島大学理工学研究科の学生と教員をグローバル人材にするための支援。

1. 海外研修の企画を運営する

2. 海外研修支援

理工学研究科の海外研修支援（準備など）、個人的な海外研修の相談（ビザ、生活など）、教員と学生係に留学生サポート

3. ランゲージサポート

英語学習サポート、英語ワークショップなど、理工系英語論文の校閲・発表支援、理工学研究科内の国際交流支援

GDO メンバー：

室長：富安卓滋 教授

副室長：新留康郎 教授 木方十根 教授

室員：Bo Causer 特任助教・橘まき 特任専門員

目次:

1. 支援室活動内容	p. 1
2. 支援室における会議実施状況	p. 2
3. 2021年度 事業費報告	p. 2
4. 研修費用および参加学生のための支援金	p. 3
5. GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information	p. 3
6. GOES 海外研修	p. 5
7. GOES Home 2021 – 理工系国際コミュニケーション特別研修	p. 6
8. GOES Home アンケート（結果）	p. 10
9. GOES Home Administration	p. 13
10. GOES Home 2022	p. 14
11. Global Professional Week 2021	p. 14
12. TOEIC	p. 16
13. English Language Support for Global Communication	p. 19

はじめに

2015 年冬の募集から始まった GOES プログラム、「理工学研究科イノベーションプログラム 海外研修プログラム(Graduate Overseas Engineering & Science studies)」は、2020 年度に「大学院生のための体験学習・海外研修 (Graduate Overseas Experiential Studies)」として、全学の大学院生に広く門戸を開放し、今年度で第 7 期となりました。残念ながら昨年度に引き続き、コロナ禍のために実際の海外派遣は実施できませんでしたが、オンラインで行われた語学研修 GOES HOME を通じて、プログラム参加者は、海外とのつながりを実感し、学びを深めることができたのではないかと考えています。学修の成果は、学生自身が作成したホームページとして公開されていますので、鹿児島大学大学院理工系グローバル人材育成支援室（以下支援室）のホームページからご参照ください。

本年度の支援室は、Bo 特任助教、橋特任専門員と副室長 2 名（新留教授、木方教授）に室長の 5 名で運営されました。本年度も GOES 関連プログラムだけではなく、Global Professional Week などの企画を通じて、コミュニケーションの道具としての英語を使いこなし、異なる専門分野や、異なる文化的背景をもった人とも十分なコミュニケーションをとれる資質を備えた「グローバル人材」の育成に取り組んできました。本報告書は、それらを中心とした支援室の 2021 年度の活動を紹介します。

グローバル人材育成は鹿児島大学全体で取り組むべき課題であり、それには、さまざまな方面からのご指摘ご意見が活かされるべきだと考えています。本報告書にお目通しいただき、グローバル人材育成支援室の活動に対してご意見等頂ければ幸いです。

最後になりましたが、GOES HOME プログラム実施に関しては、進取の精神基金より支援金をいただきました。また、理工学研究科山口研究科長はじめ理工学研究科教職員の皆様のご協力をいただき、支援室の活動をつつがなく実施することができました。支援室の活動に関わった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

2022 年 2 月

理工学研究科グローバル人材育成支援室

室長 教授 富安 卓滋

## 1. 支援室活動内容

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021 説明会</li> <li>・ GOES HOME2021 受付開始</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021 実施準備</li> <li>・ GOES HOME2021 説明会</li> <li>・ 海外研修支援金（本学ならびに JASSO）手続き</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ</li> <li>・ グローバル月例会議</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021 実施準備</li> <li>・ GOES HOME2021 学生インタビュー</li> <li>・ GOES Manual 作成</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ</li> <li>・ グローバル月例会議</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2021 実施準備</li> <li>・ Glocal Camp 実施準備</li> <li>・ グローバル月例会議</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021 参加者第 1 回 TOEIC 実施 （Listening &amp; Reading IP 及び Speaking オンライン受験）</li> <li>・ GOES HOME2021(8/16-9/17)</li> <li>・ Glocal Camp 実施準備</li> <li>・ グローバル月例会議</li> <li>・ 令和 2 年度事業実施報告書 配布</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021(8/16-9/17)</li> <li>・ Glocal Camp2021 説明会</li> <li>・ Glocal Camp2021（9/24-9/30）実施</li> <li>・ 2022 年度海外留学支援制度・JASSO（協定派遣）プログラム申請</li> <li>・ グローバル月例会議実施</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2021 参加者第 2 回 TOEIC 実施 （Listening &amp; Reading IP 及び Speaking オンライン受験）</li> <li>・ Global Professional Week2021 実施準備</li> <li>・ グローバル定月例会議</li> <li>・ English Workshop</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Global Professional Week2021 実施準備</li> <li>・ 本学海外研修支援事業プログラム申請</li> <li>・ グローバル月例会議実施</li> <li>・ English Workshop</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Global Professional Week (12/6-12/10) 実施</li> <li>・ 2022年度進取の精神基金申請</li> <li>・ グローバル月例会議実施</li> <li>・ English Workshop</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル月例会議実施</li> <li>・ 事業実施報告書作成</li> <li>・ GOES HOME2022プログラム企画立案</li> <li>・ GOES HOME 2022 説明会</li> <li>・ English Workshop</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2022 説明会</li> <li>・ 事業実施報告書作成</li> <li>・ English Workshop</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル月例会議</li> <li>・ 事業実施報告書作成</li> <li>・ GOES HOME2022 説明会</li> </ul>

## 2. 支援室における会議実施状況

業務の円滑な進行と適切な運営のため、以下2種類の会議を実施した。

### A. グローバル人材育成支援室月例会議

主席者：室長、副室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、事業実施における重要事項の議論・確認

開催日時：5/12, 6/18, 7/20, 9/3, 10/11, 11/29, 1/17, 3/1

### B. グローバル人材育成支援室定例会議

出席者：室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、イベント実施計画や学生募集の戦略について討議

開催回数：21回

## 3. 2021年度 事業費報告

費用	詳細	予算金額	執行額
消耗品	文具、事務用品	80,000	80,514
印刷	パンフ・チラシ	65,000	7,400
	コピー機使用料		0
	文集作成・印刷		0
	事業実施報告書印刷		42,660
プログラム	TOEIC IP テスト	170,000	232,820
	English Camp		10,666
	Global Professional Week		0
オンライン環境整備		35,000	0
研究活動費	研究活動	100,000	65,000
合計		450,000	439,060

#### 4. 研修費用および参加学生のための支援金

2021年度海外研修 GOES プログラムはオンラインで開催され、研修費用と参加学生対象の支援金は次の通りである。

##### 1. GOES HOME オンライン研修費用

CELT オンライン研修

語学学校授業料（諸経費込み）	1930AUD(≒¥165,000)×14
ホームステイ費用, 渡航費, 入国ビザ申請費, 海外旅行傷害保険	なし
合計	約 2,310,000

##### 2. 支援金

支援金は以下について申請し次の通り承認された。条件を満たした学生が支援金を利用した。

##### ① 鹿児島大学学生海外研修支援事業（タイプ B）

- ・ 授業科目名：理工系国際コミュニケーション海外研修
- ・ 採択支援学生数：15名
- ・ 受給人数：14名

##### ② 独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣タイプ B）

- ・ プログラム名：大学院理工系イノベーション海外研修プログラム
- ・ 奨学金支給割当人数：30名
- ・ 受給人数：0名

なお、2021年度はコロナ禍により学生を海外に派遣しなかったため、支援金②については変更届を提出し、利用しなかった。

#### 5. GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information

	研修先	専攻	進路
2015年度参加			
1	サンノゼ	機械工学	三浦工業株式会社
2		化学生命・化学工学	栗田工業株式会社
3		情報システム工学	ヤフー株式会社
4		情報システム工学	双日株式会社
5	サンディエゴ	情報システム工学	株式会社村田製作所
6		建築学	株式会社アール・アイ・イー
7		建築学	株式会社スペース
8		建築学	大和ハウス工業株式会社
9		生命化学	グローバル・ウェーハズジャパン株式会社
10	サンディエゴ・サンノゼ	機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
12		情報システム工学	三菱自動車工業株式会社
13		物理・宇宙	新日鐵住金株式会社

	研修先	専攻	進路
2016年度参加			
1	サンディエゴ・サンノゼ	化学生命・化学工学	東レエンジニアリング株式会社
2		海洋土木工学	JX金属株式会社
3		海洋土木工学	株式会社建設技術研究所
4		生命化学	株式会社リニカル
5		生命化学	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
6		生命化学	池田糖化工業株式会社
7		機械工学	大分キヤノン株式会社
8		機械工学	日産車体株式会社
9	サンディエゴ	地球環境科学	NECソリューションイノベーター株式会社
10		海洋土木工学	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
11		建築学	株式会社大林組
12	ニューヨーク	機械工学	株式会社ATOUN
13		機械工学	NOK株式会社
14		建築学	株式会社日建設計
15	ノースダコタ	建築学	株式会社南日本放送
16		化学生命・化学工学	株式会社日本触媒
2017年度参加			
1	サンディエゴ	建築学	N/A
2		建築学	株式会社JFE設計
3		生命化学	一般財団法人カケンテストセンター
4		機械工学	株式会社牧野フライス製作所
5		機械工学	ファナック株式会社
6		機械工学	N/A
7		化学生命・化学工学	明成化学工業株式会社
8	ニューヨーク	物理・宇宙	株式会社キーエンス
9		化学生命・化学工学	三井化学株式会社
10		サンノゼ	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	ヤンマーホールディングス株式会社
2018年度参加			
1	サンディエゴ	機械工学	鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程
2		化学生命・化学工学	大正製薬株式会社
3		化学生命・化学工学	住友電気工業株式会社
4		物理・宇宙	株式会社キーエンス
5		物理・宇宙	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
6	オーストラリア・パース	物理・宇宙	進学準備中
7	ハワイ	電子電気工学	キヤノンメディカルシステムズ株式会社
2019年度参加			
1	サンディエゴ オーストラリア・ パース	情報生体システム工学	タイガー魔法瓶株式会社
2		電気電子工学	ソニーLSIデザイン株式会社
3		化学生命・化学工学	株式会社新日本科学
4		建築学	株式会社傳設計
5		情報生体システム工学	ソフトバンク株式会社
6		化学生命・化学工学	本州化学工業株式会社
7		機械工学	シュルンベルジェ株式会社
8		生命化学	株式会社新日本科学PPD
9		数理情報科学	株式会社日本技術センター
10		人文社会科学研究科法学	N/A
11		情報生体システム工学	N/A



	研修先	専攻	進路
2020年度参加			
1	オーストラリア・ パース	化学	一般財団法人 化学物質評価研究機構
2		化学	SCSKニアシオアシテムズ株式会社
3		建築学	鹿島建設株式会社
4		海洋土木学	留年
5		海洋土木学	日本工営株式会社
6		食品創成科学	住商ファーマーインターナショナル株式会社
7		建築学	株式会社NTTファシリテーターズ
8		建築学	清水建設株式会社
9		建築学	株式会社乃村工藝社
10		機械工学	日産自動車株式会社
11		食品創成科学	雪印メグミルク株式会社

## 6. GOES 海外研修

### GOES in 2021

In 2021 border closures due to the pandemic once again forced us to cancel the GOES study abroad program. Although some schools in Japan were sending students to the USA for study, we did not have the capacity to guarantee the security of our students for a 10-12 week program in the USA. With the Australian borders closed, we once again took advantage of the UWA CELT online program, and further developed the Kagoshima-based camp experience, so that students could 'study abroad' virtually through the GOES Home program.

鹿児島大学 大学院理工学研究科



## グローバル人材育成支援室

**ボウ**

大学院生の  
留学、国際研究  
インターンシップ  
相談室

鹿児島大学の全研究科  
に対応します。

**橘**

大学院生  
グローバル  
人材科目・  
教育窓口

大学院研究支援  
英論チェック  
英語発表準備  
など

理工学研究科  
学院生優先権

ウェブを  
ご覧下さい



国立大学法人鹿児島大学 大学院理工学研究科  
 グローバル人材育成支援室  
 鹿児島市都元 1-21-40 〒890-0065  
 099-285-7689 (橘) 099-285-8104 (ボウ)  
 globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp  
<https://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp/>

### 鹿児島大学院グローバル人材育成支援室からの知らせ:

グローバル人材育成支援室が関わる令和3年度の授業科目は3つあります:

- 国際コミュニケーション海外研修科目 (GOES 海外研修)
- 国際コミュニケーション特別研修科目 (GOES Home 国際研修)
- 理工系グローバル人材育成の為にアカデミックイングリッシュ科目  
いずれも「大学院オープン科目」です。全学の大学院生が受講できます。

国際コミュニケーション海外研修科目(GOES 海外研修)は  
新型コロナウイルスの関係でしばらく停止します。  
(海外での安全が確保され次第再開します)

国際コミュニケーション特別研修科目  
GOES Home 国際研修 4単位

- 第一部 パース市での西オーストラリア大学附属  
語学学校 CELT オンライン国際研修
- CELT 在籍英語教育専門指導教員による楽しく充実した授業を提供します。
  - 他の国の学生と交流ができます。
  - 短期間で、英語の使い方が学べます。
- 日付 8月16日~9月17日  
5週間 (オンライン授業)

授業料には「進取の精神基金支援金」が支給されます。  
(自己負担額未定)

時間割	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:30-11:30	単語	文法	聴取	会話	読み書き
11:45-13:45	豪文化	交流	豪文化	豪文化	交流
14:00*	選択 交流イベント (参加自由)				

- 第二部 鹿児島大学パース・鹿児島姉妹都市関係  
グローバル イングリッシュ キャンプ  
CELT 研修の後1週間 (9月26日~9月30日予定)  
学内で実施、参加費無料。

詳しい情報と授業説明会予定をこちらへご覧下さい:  
[https://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp/?page\\_id=1250](https://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp/?page_id=1250)



理工系グローバル人材育成の為に  
アカデミックイングリッシュ科目  
2単位

自分の研究と世界との関係  
が分かりますか? 自分の  
研究の歴史とグローバル関係  
を英語で学ぶプロジェクト  
を行います。

参加学生の専門分野は広範囲に及び  
ます。同級生の英語発表を聞いて、  
幅広い知識と自分の研究につ  
いての理解を深めましょう。

この授業は8週間で実施します。  
課題はオンデマンド、指導は  
Zoom、または教室で行います。  
授業時間 (週3時間) は  
グループ分けで行います。

詳しい情報と授業説明会予定ため  
に、こちらへご覧下さい:  
<https://boclassroom.wordpress.com/courses/>



科目以外、単位なし

Fast 15: 月曜日~木曜日、15分 Zoom で英語を話そう。参加者と、決めたテーマで喋りましょう。  
Friday Finish: 金曜日、15時~16時参加者と一緒にビデオを見る、その後ビデオ内容を話しましょう。  
時間割をウェブでご覧下さい: [https://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp/?page\\_id=1447](https://globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp/?page_id=1447)

## 7. GOES Home 2021 – 理工系国際コミュニケーション特別研修

### Part 1: Online English lessons with UWA CELT

CELT once again offered a special class for KU students that focused on building their basic language skills, through education centering on Australian culture. Opportunities for language exchange with students attending CELT in person were also incorporated into the custom program. Two KU students who scored well on the CELT placement test were offered the chance to join regular classes.

In 2020 we provided cho-rei in case students encountered difficulty with the CELT classes. As students did not encounter any difficulty, this year students joined the classes independently, and once again no trouble was reported. CELT provided comprehensive attendance reporting. Prior to the beginning of the course we agreed that due to the possibility of illness and unavoidable research activity, students could request up to three absences. Several students made requests which were granted. One student's supervisor assigned a full week of seminar work which the student had not previously been aware of. At first the student was anxious to miss a week of CELT classes in order to comply with the professor's request, however we discovered that the student had not informed their professor about their participation in the GOES Home program. We advised that they do so, and the professor kindly excused the student from his seminar work, where it overlapped with the CELT course.

As in 2020 the CELT classes were mainly conducted using Zoom, and assignment content was delivered through the CELT VLE (Virtual Learning Environment), Schoology. *The program outline provided by CELT is shown on the facing page.*

### Part 2: Glocal Camp

Following MEXT recommendations for a local program component for credit courses, we once again held a week-long Camp after the CELT program ended. In 2020 we called it English Camp, but in 2021 we refined the camp program, and although it was held entirely in English, it focused on bringing local knowledge to a global platform, so it was re-named Glocal Camp. As in 2020 the purpose of the camp was threefold:

1. For students to be able to apply the English they had learned online at CELT,
2. To help students deepen their awareness of the digital skills they were building through participating in online lessons, and to develop their understanding of authorship in online settings,
3. To contribute to Regional Development through the Kagoshima-Perth Sister City relationship.

Once again it was unclear whether we would be able to hold the camp face-to-face, or whether it would need to be held online, we prepared activities that could be adapted to either situation. With the fifth COVID wave peaking in August, it was not possible to hold a socially-distanced camp on campus as we had in 2020. However, it was possible for students to gather for a short time for special field work. Students were divided into two groups, with each group visiting a local company. Students who did not want to join the field trip physically, were supported to join virtually via Skype.

After visiting their chosen site, students proceeded to develop web pages to add to the site created by the 2020 cohort, working remotely. Each group spent a half day planning together on Zoom with the support of the instructor, and the other half of the day conducting research about their topic and building their web pages.

Their work can be seen via the following links:

<https://goesgakusei.eng.kagoshima-u.ac.jp/energy>

<https://goesgakusei.eng.kagoshima-u.ac.jp/what-is-marine-port-kagoshima>

English Skills & Australian Culture Online  
Module Outline  
Term 7 2021

Week	Key grammar	Key vocabulary	Key reading	Key writing	Key listening	Key speaking	Academic Skills	Australian Culture/ Project
1. People	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word order in questions</li> <li>Present simple - review</li> <li>Present continuous - review</li> <li>Parts of speech</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Describing people: appearance, personality, life stages, hobbies</li> <li>Prepositions of place and time</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bad Leaders</li> <li>Life stages</li> <li>Charlie's e-mail</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Diagnostic - All about me!</li> <li>E-mail describing a person</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>New people</li> <li>Young leaders</li> <li>Language for hobbies</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ask &amp; answer questions about self &amp; familiar topics</li> <li>Describe people</li> <li>Describe a picture</li> <li>Talk and ask about hobbies</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary Development</li> <li>listening and speaking</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aboriginal History and Culture</li> <li>Aboriginal Story-telling</li> <li>Research: A famous Australian person</li> <li>Weekly mingle with levels 3 and 4 onshore and CELT staff</li> </ul>
2. Places	<ul style="list-style-type: none"> <li>Past simple - review</li> <li>Past continuous - review</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Describing cities including adjectives about places in cities</li> <li>Describing Holidays</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>No-car zones</li> <li>Holiday disasters</li> <li>Places in a city</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Describing a place (present)</li> <li>Describing a photo (past)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparing countries</li> <li>Holiday disasters</li> <li>Giving directions</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Talk about and compare cities in Australia and home country</li> <li>Talk and ask about countries and nationalities</li> <li>Talk and ask about holidays and past experience</li> <li>Describing your last holiday</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparing places - listening and speaking</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Perth</li> <li>King's Park</li> <li>Weekly mingle with levels 3 and 4 onshore</li> <li>Q and A and mingle with JapSSocc</li> </ul>
3. Health and Happiness	<ul style="list-style-type: none"> <li>Should and shouldn't for advice</li> <li>First Conditional: if + present, will / won't</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Get</li> <li>Illness and Health</li> <li>At the pharmacy</li> <li>Happiness</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Too macho to talk?</li> <li>A good night's sleep</li> <li>Health and happiness</li> <li>The secrets of a long life</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Giving advice</li> <li>Asking for medical advice</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>What's the problem</li> <li>Happy dancers</li> <li>Could you go vegan?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Give advice</li> <li>Talk about illness</li> <li>Health and happiness</li> <li>Identify &amp; use correct verbs in conversation</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work and Stress - reading and writing</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aussie Beach Culture</li> <li>Happiness in Australia</li> <li>Weekly mingle with levels 3 and 4 onshore</li> </ul>
4. Language and Learning	<ul style="list-style-type: none"> <li>Have to, don't have to, must, mustn't</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Online learning</li> <li>Language learning informal and formal phrases for e-mails</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Language learning study skills</li> <li>Saving languages</li> <li>Enrolling on a course</li> <li>Assessment [100%]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Write rules for online learning</li> <li>Write a formal e-mail asking for information (50%)</li> <li>Write a description (50%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Language and learning</li> <li>Disappearing languages</li> <li>Saving languages</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Speaking assessment (80%)</li> <li>Discuss online learning advantages and disadvantages</li> <li>Discuss disappearing languages</li> <li>Talk about the importance of exams</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Giving opinions - listening and speaking</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>School of the Air</li> <li>Indigenous Languages</li> <li>Weekly mingle with levels 3 and 4 onshore</li> <li>Mingle with JapSSocc</li> </ul>
5. Food	<ul style="list-style-type: none"> <li>Quantities</li> <li>Countable and uncountable nouns</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Famous food</li> <li>Cooking verbs</li> <li>Slow food</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Food markets</li> <li>Expensive taste</li> <li>The seed vault</li> <li>Comfort food</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Describing food and drink</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Famous for Food</li> <li>Slow food</li> <li>Gelato university</li> <li>Food labelling</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Speaking participation weeks 1-5 (20%)</li> <li>Famous foods</li> <li>Food markets</li> <li>Describing food</li> <li>Food and labelling</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Food from other countries - reading and writing</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aussie food</li> <li>Damper lesson with student activities</li> <li>Weekly mingle with levels 3 and 4 onshore</li> </ul>

## COMMUNITY DEVELOPMENT PROJECT

### A: Technology in the City

Asada Mesh is a company in Kagoshima that produces fine mesh products. This mesh has a variety of applications, and one is for use in screen printing. When you think of screen printing, you may imagine putting pictures on T-shirts, but screen printing is an important technique for making computer chips. Very fine lines of conductive material are printed onto tiny chips, and this allows us to have very small digital devices.

While Asada Mesh makes the screens for printing computer chips, other companies with Kagoshima branches, like Kyocera and Sony, make the chips and devices.

In your group, you will visit Asada Mesh company. After that you'll choose an aspect of locally produced technology, and find out how it connects to our daily life in Kagoshima. You'll also research to find out if Perth has similarities. Finally, you'll make an English web page to help people living outside of Japan to understand about our local technology.

<https://asada-mesh.co.jp/en/index.html>

### B: Construction & Buildings

Yonemori Construction has been building large-scale developments in and around Kagoshima for 100 years. This means that they have shaped our life in many ways. Construction methods and materials have changed over the years, and we are now in an era where we both need large scale construction to protect and improve our lives, while suffering from some environmental damage caused by our building activity.

In your group you will visit two large developments at Marine Port Kagoshima, and you will have a chance to ask staff directly about Yonemori Construction's activity.

After your visit you'll choose an aspect of Kagoshima's construction and development, and find out how it shapes our daily life in Kagoshima. You'll also research to find out if Perth has similarities. Finally, you'll make an English web page to help people living outside of Japan to understand about our local construction environment.

[https://yoneg-net.co.jp/group/group\\_category/yonemori\\_construction](https://yoneg-net.co.jp/group/group_category/yonemori_construction)

## SCHEDULE

### A: Technology in the City

	Friday September 24 Orientation	Monday September 27	Tuesday September 28	Wednesday September 29	Thursday September 30
AM	<b>9:00 - 12:00</b> Zoom <b>9:00</b> Project introduction <b>9:30</b> How to make web pages <b>11:00</b> Prepare for company visit (teams, project planning and making questions) <b>11:45</b> report to group	<b>9:00</b> Leave KU to visit Asada Mesh  Company visit, return <b>around 14:30</b>	<b>9:00 - 12:00</b> Zoom Follow-up for company visit  <b>9:00</b> whole group meeting <b>9:30</b> Teams: Planning fieldwork, research, web pages and design <b>15:45</b> report to whole group	<b>9:00 - 12:00</b> Zoom Follow-up for company visit  <b>9:00</b> whole group meeting <b>9:30</b> Teams: Planning fieldwork, research, web pages and design <b>15:45</b> report to whole group	<b>9:30 - 12:00</b> Zoom  <b>9:30</b> Whole group meeting, presentation instructions <b>10:00</b> Teams: Presentation preparation <b>11:45</b> report to whole group
12:00	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
PM	Think about project, think about website building, prepare for company visit.	Plan how company visit could contribute to project.	Field research & website building; end-of-day Zoom check-in	Field research & website building; end-of-day Zoom check-in	<b>13:00 - 15:00</b> Zoom <b>13:00</b> Presentation introduction <b>13:15</b> Technology in the City website presentation, Q/A & Feedback <b>14:00</b> Construction & Building website presentation, Q/A & Feedback <b>14:45</b> Camp closing

# SCHEDULE

## B: Construction & Buildings

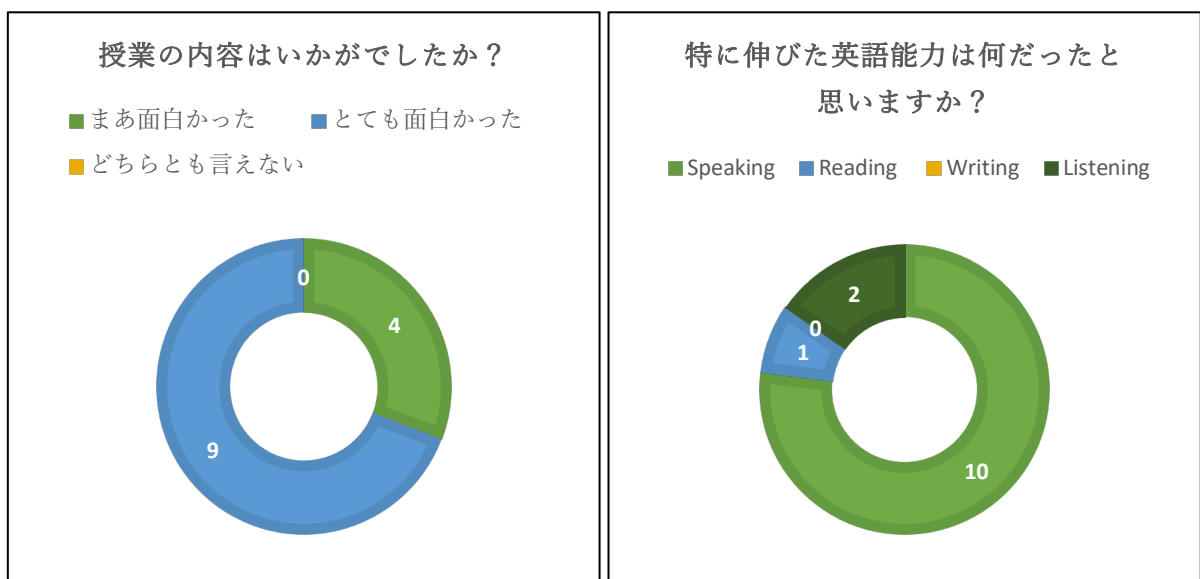
	Friday September 24 Orientation	Monday September 27	Tuesday September 28	Wednesday September 29	Thursday September 30
AM	<b>9:00 - 12:00</b> Zoom <b>9:00</b> Project introduction <b>9:30</b> How to make web pages <b>11:00</b> Prepare for company visit (teams, project planning and making questions) <b>11:45</b> report to group	<b>9:00</b> Leave KU to visit Yonemori Construction at Marine Port  Company visit, return <b>around 12:00</b>	Field research & website building; pre-lunch Zoom check-in	Field research & website building; pre-lunch Zoom check-in	<b>9:00 - 12:00</b> Zoom <b>9:00</b> Whole group meeting, presentation instructions <b>9:30</b> Teams: Presentation preparation <b>11:30</b> report to whole group
12:00	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
PM	Think about project, think about website building, prepare for company visit.	<b>13:30 - 15:30</b> Zoom Follow-up for company visit  <b>13:30</b> whole group meeting <b>14:00</b> Teams: Planning fieldwork, research, web pages and design <b>15:15</b> report to whole group	<b>13:00 - 16:00</b> Zoom  <b>13:00</b> Whole group meeting <b>13:30</b> Teams: Planning fieldwork, research, web pages and design <b>15:45</b> report to whole group	<b>13:00 - 16:00</b> Zoom  <b>13:00</b> Whole group meeting <b>13:30</b> Teams: Planning fieldwork, research, web pages and design <b>15:45</b> report to whole group	<b>13:00 - 15:00</b> Zoom <b>13:00</b> Presentation introduction <b>13:15</b> Technology in the City website presentation, Q/A & Feedback <b>14:00</b> Construction & Building website presentation, Q/A & Feedback <b>14:45</b> Camp closing

## 8. GOES Home アンケート・結果

プログラム後、アンケートを行った。プログラム参加者は 14 名で、そのうち 13 名から回答があった。CELT 語学学校と Glocal Camp のそれぞれに対して回答を求め、その結果をグラフと表に示した。

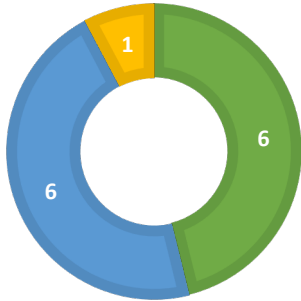
### CELT 語学学校

参加学生は語学学校を高く評価しました。



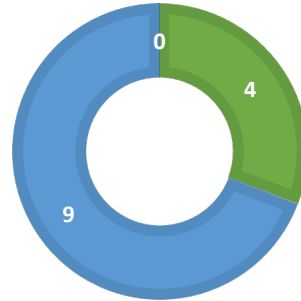
期間（5週間）はいかがでしたか？

- 長かった/多かった
- ちょうど良かった
- 短かった/少なかった



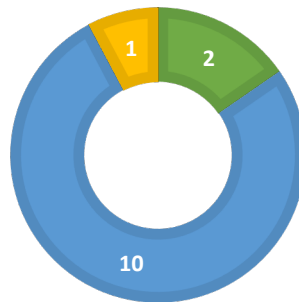
頻度（5日/週）はいかがでしたか？

- 長かった/多かった
- ちょうど良かった
- 短かった/少なかった



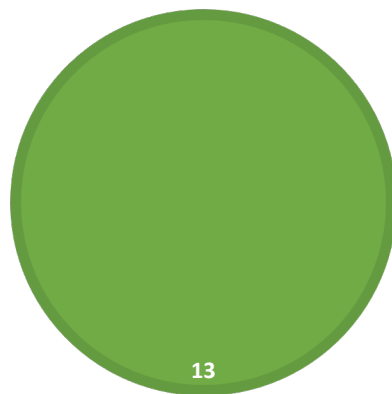
時間（4時間半/日）はいかがでしたか？

- 長かった/多かった
- ちょうど良かった
- 短かった/少なかった



後輩へCELTオンライン授業を勧めますか？

- はい
- いいえ



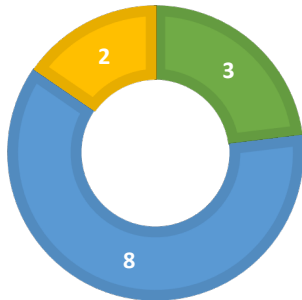
	CEITの講師はいかがでしたか？	授業に対し満足した点・改善して欲しい点等ご記入ください。	講師に対し期待すること、改善して欲しいこと、点等ご記入ください。	後輩へCEITオンライン授業を勧めの理由を教えてください。	来年度以降の参加者へアドバイスください。
1	授業内も授業外も親切に教えてくださりました。	すこし期間が長かった	特になし	夏休み期間が充実していたから。	予定の調節をしていた方がいい。
2	優しくこちらがわかるように授業をしてくれたのが良かった。	時間帯の調整がもつとできたりやすいやしく感じました。zoomのため話しにくい、聞き取りにくいこともありました。	テンションが高くて楽しかったので、継続してほしい。	英語力が伸びるというより英語が楽しく少し身近に感じられる。	参加した際はより積極的に話してほしい。
3	とても親切で、わかるまで説明してくれた。またフィードバックのときもワイワイががやがやと楽しかった。	5週間週5で英語と向き合うことで集中的に英語のスキルアップ、特にスピーキング、リスニングが伸びた。特にこの二つは独学ではなかなか伸びることができない分、とても満足している。	講師によりやり方がさまざまなか、いろいろな形で英語に触れ合えたのは良かったが、余談などが多いためいってその日の内容が進んでいないのかわからない時があった。	英語を伸ばすのこともいいと思った。クラスもレベル別に分かれているので自信と触れ合えることができ、同じクラスの中でもできる人を見ることができ、最初は挫折しそうになるが、その分伸び代を感じられる。	積極的な発言を進めます。わからないことを英語でうまく伝えられないかもしれないが、簡単な単語からでもいいので伝えることが大事です。講師の皆さんはそれもしっかり解釈してくれたり、一緒にクラスの人が違う言葉で伝えてくれたり、恥ずかしがらず発言してほしい。
4	親しみやすく良かった。	講師だけでなく海外の学生と話すことにより、英語でのコミュニケーションが取れるという自信になった。講師だと英語初心者との会話に慣れているのではないかと考えてしまうので非常に良い経験になった。	非常に満足だった。	日常生活の中で英語を話す時間を得る事が出来るというのも利点だが、日本の中には様々なことのない価値観を学べるのは非常に良いと思う。	伝わらなかつたり聞き取れなくても何とかなるので積極的な姿勢で参加する事をお勧めします。
5	面白くて、分かりやすかったです。	特になし	特になし	英語を勉強する良い機会になったと思うから。	speakingの勉強になるので、頑張ってください。
6	わかりやすい表現をつかってくれたので、理解しやすかったです。	グループで話す機会が多く、英語を使って話す練習ができてよかったです。	特になし	英語を学習する良い機会になると思うからです。	英語が全く話せなくても、参加してみたいと思います。
7	メインは2人でたまに代わりの先生が1人いたのですが、それぞれ授業の流れなどが違っていて、その違いがおもしろかったです。	ペアワークが多く、満遍なくいろんな人とペアになったのでクラス全体で仲良くなれた点。	講師間での授業の確認。(A先生の時に、B先生の授業で発表するプレゼンを準備してと言われたけど、結局しなかったため。)	①英語学習の継続、モチベーションアップに繋がるから。②院生になってもあまり出合いがないなかで、鹿大だけでなく他大学の人と交流が図れるから。	上手にしゃべろうとしなくても、積極的にいくことが大事だと思います。出合いも広がるようなプログラムです。あと、何かあった時クラスメイトと連絡がとれるように連絡先交換しておくともいいと思います。
8	いつも優しく教えてくださったので、英語で発言することに少し怖さや恥ずかしさや不安が少なくなりました。	授業内で必ず発言する機会があったことが良かったと思う。	特になし	毎日英語を話す経験ができるから。	英語で話すことの自信がなくなると、ぜひ参加してほしいです。恥ずかしがらずにどんどん発言してほしいです。
9	丁寧なご指導と親身に寄り添った会話をしてくれました。	ファイルの使い方がわからない部分が多くて、困った場面がありました。	特になし	英語を話すということに対して抵抗感が薄れることができた。	わからないうちは素直に聞いてくれた方がいい。
10	明るく親切に教えてくれて、楽しく学ばせて頂きました。	グループワークメインだったので、日本方式とは異なり、能動的に学ぶことが出来た。また、何より自分と同レベルの学生ばかりだったので、クラスの中のみでの授業はストレスなく送ることが出来た。そのおかげで、授業と英語にだけ集中することが出来、英語力の向上につながった。一方で、週1程度で学術英語のクラスの人たちとの混合セッションがあり、英語の能力は大差ないのかもしれないが、どうしても劣等感を感ずいてしまい、学術英語の日本人と同グループになった時、あまり積極的に活動できなかった。	宿題量の増加と学術英語クラスとのセッションの中止が基本的には楽しく学ぶことが出来ました。	研究だけに集中するのも重要な事だとは思いますが、参加して後悔はしないと思うから。	テストはリラックスして受けましょう。
11	優しくよかったです。	特になし	特になし	英語話せる機会が作れる。	頑張ってください。
12	気さくに接してくださり、授業が楽しめました。	コミュニケーション力が問われる機会を多くいただきました。鹿児島大学では体験できない授業形式でした。	特になし	英語学習に対しての考え方が変わると思うから。	正直、授業期間は、5週間長いなと感じることがありましたが、達成感はとてもあります。自分の、英語力を測る良い機会だと思います。
13	とても優しく面白いです。	とても良い経験でした。	もっと先生に交流して欲しい	授業が面白くて、友達ができると思います。ぜひ参加してください。	自信を持って、たくさん英語の話をしてください。

## Glocal Camp

参加学生は Glocal Camp を高く評価しました。

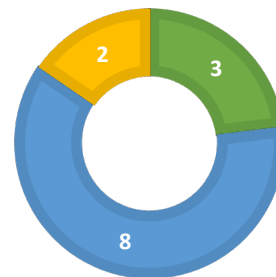
企業訪問はいかがでしたか？

- とても面白かった
- 面白かった
- どちらとも言えない



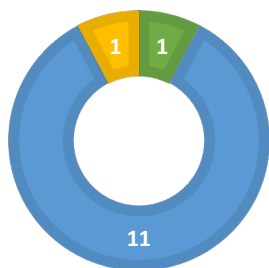
課題内容（WEBサイト構築）は  
いかがでしたか？

- とても面白かった
- 面白かった
- どちらとも言えない



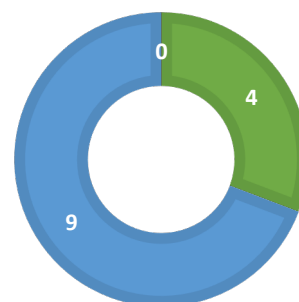
期間（5日間）はいかがでしたか？

- 長かった/多かった
- ちょうど良かった
- 短かった/少なかった



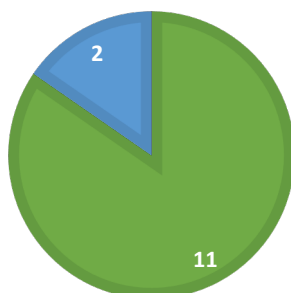
時間（6時間/日）はいかがで  
したか？

- 長かった/多かった
- ちょうど良かった
- 短かった/少なかった



後輩へGLOCAL CAMPへの参加  
を勧めますか？

- はい
- いいえ





	GlocalCampへの感想やコメントを下さい。	後輩へGlocalCampへの参加を勧めます（はい・いいえ）への理由をご記入ください。	来年度以降、GlocalCampに参加する学生へアドバイスをください。
1	他分野の知識を深めることができたり、それを英語で説明する力をつけたりすることができてよかった。	(はい) 語学能力を高めることができるから。	コミュニケーションを良く取った方がいい
2	もう少しデザイン性などを含めて学べると思っていたので、その点は少し残念でした。負担が人によって違うため、相談もすぐにはできる環境ではなかったところが少し辛かった。	(いいえ) もしオンラインのままなら、その前に記載した理由を含めて、負担の大きさが気になります。	得意不得意で考えるより、作業量などを重視して行動するべきだと思います。
3	少し時間的に窮屈に感じ、急いで物事に取り組んだ印象が残っている。英語で鹿児島に貢献できた面ではとてもいい経験になった。	(はい) 鹿児島で映画を使って貢献するというやりがいのあることができるから。	日本人だけで集まるとやはり発言力がみんななくなってしまうので、これも積極的に発言してほしい。わからないことは英語でもいいと思うので話し合いに参加、発言をして、よりこの活動が良くなるように取り組んでほしい。
4	時間が短く大変だったが学べる点も沢山あり参加して良かったと思う。	(はい) CELTで学んだ英語を使える機会である事は勿論ですが、決められた期日までに他人との作業を終わらせるスキルは今後も必要になると思います。	他人に任せたり自分だけで解決しようとするのではなく、他人に頼れる場所と自分が出来る事を考えて進める事が大事だと思います。
5	企業訪問がとても面白かったです。鹿児島の企業について知ることが出来ました。	(はい) Webページ作るのが楽しかったからです。	WEBページを作る機会はありませんので、楽しい経験ができます。
6	ウェブだと対面より作業を進めるのが難しいような気がしていましたが、最終的には出来上がったので良かったです。	(はい) 英語に触れる時間を少しでも増やしたほうがいいと思うから。	特にありません。
7	鹿児島のことを英語で語るとは思ってなかったし、webページなども初めてつくったので良い経験になりました。私たちのペアは個人作業が多かったので、zoomを繋いだまま作業はあまり意味ないような気がしました。	(はい) ペアワークやweb作成、プレゼンを話す側・聴く側などの全てのプログラムにおいてCELTで学んだ英語の4つの技能がどれだけ向上したのかを確認できるから。	5週間のプログラムを終えた後で大変かなと思いましたが、CELTとはまた違った楽しさがあり、モチベーションの維持にも繋がります。あとテスト以外で自分の英語力が確認できる点もおすすめです。
8	普段の自分なら興味を持たない分野・企業さんへの訪問ができ、いろいろなことを学ぶことができました。自分たちで写真を撮りに行ったり、調べたりすることも初めてやったので、参加して良かったです。	(はい) 自分の研究している以外の分野について学ぶことができるから。ホームページの作り方を学ぶことができるから。	企業訪問では気になったこと、小さなことでも積極的に質問してほしいです。
9	地域に関する知識を得られたことやそれを英語で説明するのは英語の力を高められたと感じました。	(はい) 英語で伝える機会を得ることができるため	何を伝えたいかを考えて参加する。
10	全員英語力がバラバラなので、日本語が多くなりがちになってしまっていた印象がある。全員一緒に行うにしても、もう少し日本語使用に対する規制を厳しくしてほしいと感じた。ウェブサイトを作成したことがなかったので、良い経験になった。また、企業訪問についても、難しいとは思いますが、英語のみで対応可能な企業が良かったと感じた。	(いいえ) 英語力の不均一さについてのバランスのとおり方と、日本語使用の規制強化について改善して欲しいと感じた。	時間があればパソコンで絵を描く練習をすることをお勧めします。
11	企業見学は勉強になった。	(はい) 勉強になるから。	がんばって!
12	鹿児島大学の学生と交流しながら、楽しく英語を学ぶことができました。	(はい) コミュニティが広がる可能性があるから。	5週間のgoesでの学びを、実装にうつす良い機会でした。是非、参加されてください!
13	いい経験でした。	(はい) 実際に工場で見学し、いろいろ勉強できるし、チームワークでネット構築することも面白かったです。	ぜひ応募・体験してください。

## 9. GOES Home Administration

### Preliminary preparations

The online component of the GOES Home program was the same as in 2020, so no special preparation was needed. Students took their placement tests online after the GDO office registered them. Tuition was generously supported by Kagoshima University's Spirit of Enterprise fund, and this

year Kagoshima University paid UWA CELT directly, eliminating the need for students to make payment and be reimbursed.

Since we had decided in advance to hold the GOES Home program in 2021, we were able to provide information during orientation for new Masters' students. Program information was also included in the orientation package of the Graduate School of Agriculture, Forestry and Fisheries. 14 students registered for the course, with 7 students from the Graduate school of Science and Engineering, and 7 from the Graduate School of Agriculture, Forestry and Fisheries. Students were interviewed to determine their eligibility for funding support.

In 2021, TOEIC became available online and on-demand, so students were able to take TOEIC from home at their convenience. With this additional flexibility, it became feasible to hold both the Listening/Reading and Speaking tests.

For the Glocal Camp, connections were made through the Kototsukuri Center and two local companies (Asada Mesh, Yonemori Construction) were able to provide tours for GOES Home students to introduce their Glocal Camp project.

### Follow-up

After the CELT course and Glocal Camp were over, students were once again given the TOEIC Listening/Reading and Speaking tests to establish their improvement in English. This is discussed in detail on page 13. They were also given the opportunity to share their experience with other students, during Global Professional Week (this page). Their contribution to support the Spirit of Enterprise aims of helping local industry were considered to be fulfilled through the development of their website.

## **10. GOES Home 2022**

Although there had seemed to be some possibility for re-starting GOES Overseas Study program in 2022, the Omicron wave of early 2022 caused reconsideration, with borders remaining closed and risks high. Therefore in 2022 the GOES Home program will be run once again. Some students are eager to study abroad before they graduate, so information sessions will focus on reasons why actual travel remains restricted, and how the GOES Home program can prepare students for future opportunities.

## **11. Global Professional Week**

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年も Global Professional Week はオンラインで実施した。去年と同じように、グローバル人材育成支援室とコトづくりセンターとの共催で開催することにした。参加募集は学内メールとチラシ・ポスター（上）で行い、以下のとおり多様な内容を用意した。

- 1) 基調講演・Global is Digital – 特任助教ボウ コーザー
- 2) オンライン時代の国際研究活動 – 化学生命・化学工学専攻 助教 新地 浩之先生
- 3) 若手グローバル人材：大学院生の感想交流会 – コトづくりセンターと共催
- 4) オンライン時代の学生のための精神衛生サポート – 石走知子先生（共通教育センター）、今村智佳子先生（障害学生支援センター）
- 5) 研究科と来年の海外研修・説明会 – 室員
- 6) English Workshop: SDG 8 Decent Work & Economic Growth – 室員

# Global Professional Week 2021

12月6日(月)～12月10日(金)

## Global is Digital

参加費:無料  
 開催方法:オンライン(ZOOMを使用)  
 定員:大学院生・学部生・先生・スタッフ 100名程度  
 申込:以下のウェブページで受付中

鹿児島大学理工学研究科  
 グローバル人材育成支援室  
 登録: <https://forms.gle/pcc8NWEcu4tTNQV76>



16時30分 開演・主催者挨拶 16時35分～17時15分 基調講演・Global is Digital: 今から、グローバル能力は何が必要ですか？ グローバル人材育成支援室 特任助教ボウ コーザー	12 月 6 日 (月)
13時30分～14時15分 研究科と来年の海外研修・説明会 16時35分～17時15分 オンライン時代の国際研究活動: 化学生命・化学工学専攻 助教 新地 浩之先生	12 月 7 日 (火)
13時30分～15時30分 若手グローバル人材:大学院生の感想交流会 (研究インターンシップ・ GOES Home 特別研修の参加者の声) *コトづくりセンターと共催	12 月 8 日 (水)
13時30分～14時15分 オンライン時代の学生のための 精神衛生サポート:石走知子先生(共通教育センター)、 今村智佳子先生(障害学生支援センター) 16時30分～17時15分 研究科と来年の海外研修・説明会	12 月 9 日 (木)
11時30分～12時30分 English Workshop: SDG 8 Decent Work & Economic Growth 将来の仕事、経済活動の大事点を英語で対話しましょう！	12 月 10 日 (金)

### 若手グローバル人材：大学院生の感想交流会

研究インターンシップ・GOES Home 特別研修の感想交流会として、参加者による発表と次年度以降の希望者との交流会を行った。新大学院生の参加も呼びかけ、参加者は56名であった。

研究インターンシップの部では、地域コトづくりセンターの役割、研究インターンシップの流れについての事業説明、研究インターンシップ経験者の報告(海洋土木工学(博士前期課程2年(実施時))より、CRS株式会社での経験談を報告。CRS株式会社は鹿児島県内企業・鹿児島大学での共同研究実施企業であり、研究のテーマや、インターンシップ生として企業で働くことにより得られた気づきや、その後の学生生活への影響など、経験者ならではの報告がなされた。

GOES Homeの部では、オンライン語学研修での流れや授業の感想、他国学生との交流の様子など経験に基づいたコメントがあり、続く交流会(ブレイクアウトルーム)では、授業と研究生生活・アルバイトとの両立や、英語の上達具合など、参加者はより具体的に質問をすることができた。

### 研究科と来年の海外研修・説明会

Due to uncertainty about the future of overseas travel, with borders in several countries still closed, recruitment for the GOES program was not considered to be possible during Global Professional Week. However, it was felt that students ought to be made aware of what the Graduate School of Science and Engineering was planning in regards to future programs. Therefore two information sessions were scheduled as usual, and we were able to explain the uncertainty we are facing in planning, and what we

could and could not consider, to students who were curious about overseas studies opportunities through the university.

### English Workshop: SDG 8 Decent Work & Economic Growth

After arrangements for an outside speaker fell through, the regularly scheduled English workshop was held on the last day of Global Professional Week.

## 12. TOEIC

In 2021 we were able to access information which gave more robust context for the TOEIC scores. First, CELT shared the placement and testing scores for our students with us, and we were also able to conduct the TOEIC speaking test both before and after the program, for the first time.

CELT uses a standardized test from Cambridge university for its initial placement test. The results are given in accordance with the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). These results were converted to a score which aligned with one of the 7 course levels at CELT. Both the student data and conversion key can be seen as follows:

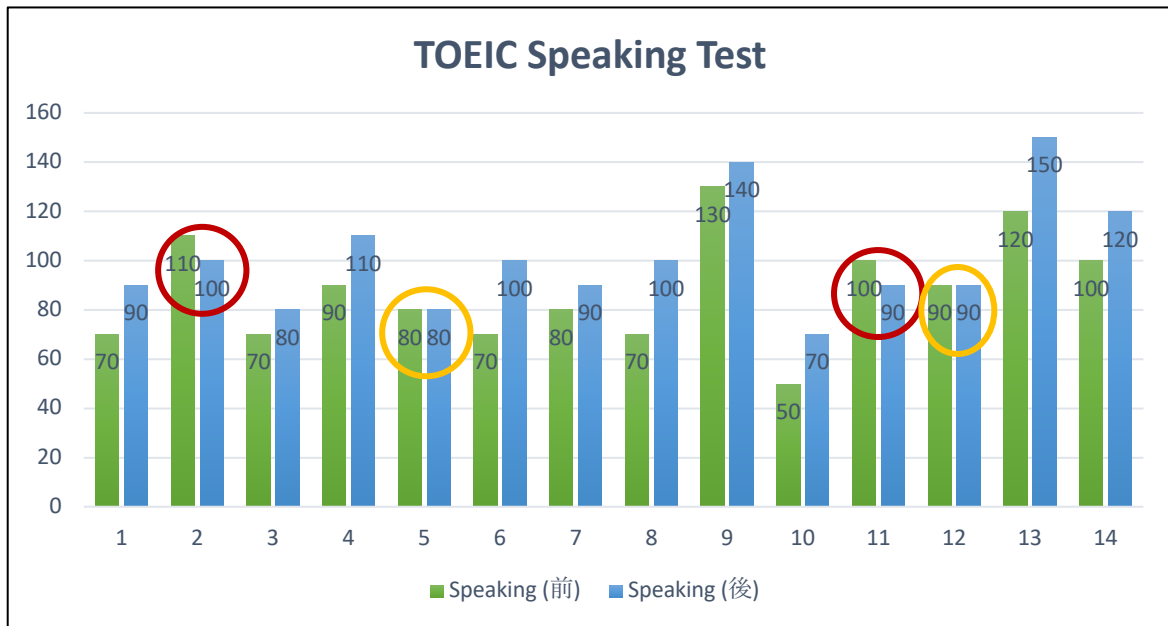
<b>CEFR</b>	<b>UWA CELT Level: Course Start</b>	<b>UWA CELT Level: Course End</b>
A2	Elementary	Pre-Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
B1	Intermediate	Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
B1	Intermediate	Intermediate
B1+	Upper Intermediate	Upper Intermediate
A2	Elementary	Pre-Intermediate
A2	Pre-Intermediate	Pre-Intermediate
B1	Intermediate	Intermediate
B1	Intermediate	Upper Intermediate
B1	Intermediate	Intermediate

### CELT Course level key

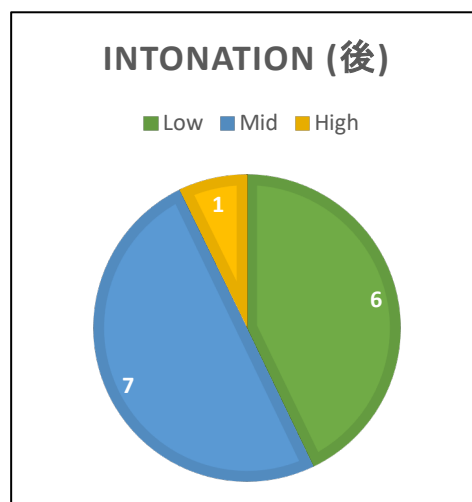
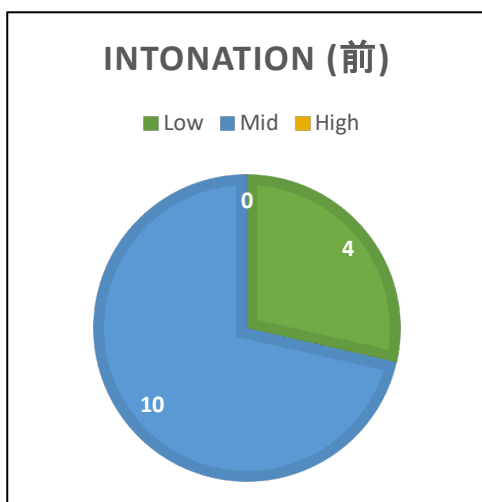
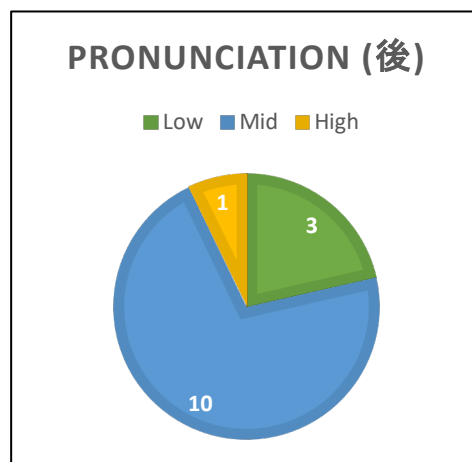
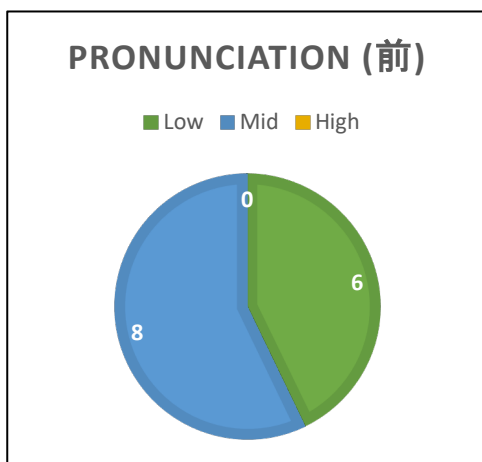
Level	Achievement Descriptors	Approximate exit CEFR level
<b>Level 1</b> Beginner	<b>Students can</b> understand and use basic everyday language to fill in short forms and to produce simple, mainly unconnected, phrases and sentences about personal details.	<b>A1</b>
<b>Level 2</b> Elementary	<b>Students can</b> understand and communicate about simple topics, functioning well in familiar everyday social situations and routine tasks such as taking a bus, shopping and making requests.	<b>A1+</b>
	<b>Students are</b> also able to follow a model to write basic descriptive paragraph using simple tenses and linking devices and correct punctuation.	<b>A2</b>
<b>Level 3</b> Pre-intermediate	<b>Students can</b> understand and use descriptive adjectives and adverbs to express personal opinions and communicate clearly and appropriately on a range of familiar topics and some routine situations.	
	<b>Students are</b> able to show control of their use of simple sentences and tenses to write short descriptive paragraphs with correct punctuation, linking devices and spelling.	
<b>Level 4</b> Intermediate	<b>Students can</b> understand the main ideas of most written and aural texts about familiar, everyday situations.	<b>B1</b>
	<b>They have</b> begun to explore meaning in unfamiliar contexts and of abstract topics.	
	<b>Students can</b> take an active part in informal discussions with some fluency and confidence and by using a range of language functions.	
	<b>Students are</b> able to use a range of fairly complex structures, tenses and vocabulary to discuss and write about some basic abstract and social issues, although the content may contain errors which may impede understanding.	
<b>Level 5</b> Upper-intermediate	<b>They are</b> able to write clear and detailed descriptions and logically structured paragraphs.	<b>B1+</b>
	<b>Students can</b> understand and summarise most written and aural texts about a variety of familiar situations as well as producing texts about unfamiliar topics and contexts that show evidence of linguistic accuracy and fluency.	
	<b>Students can</b> take an active and sustained part in informal discussions with a degree of fluency, accuracy and confidence using a wide range of language functions.	
<b>Level 6</b> Pre-advanced	<b>Students can</b> understand and develop clear descriptions, essays and presentations on a wide range of abstract topics, expanding and supporting ideas with subsidiary points and relevant examples.	<b>B2</b>
	<b>Students can</b> understand and integrate a broad range of language in a variety of contexts, and demonstrate a degree of complex formal and colloquial language in written and spoken tasks to persuade, negotiate and manage discourse.	
<b>Level 7</b> Lower advanced	<b>Students can</b> also provide accurate, clear, detailed, and well-extended descriptions, essays, presentations and discussions on a variety of abstract tasks.	<b>B2+</b>
	<b>Students can</b> understand and use a broad range of grammatical structures and vocabulary fluently, accurately, flexibly and spontaneously in a variety of complex written and spoken social, academic and professional contexts.	
	<b>They can</b> understand and use format, tone and register accurately and logically for purpose to express ideas, opinions and extended arguments. Some minor errors and lapses occur but do not impede understanding.	<b>C1</b>

Only three students moved up a level over the 5-week course, however given the skill sets described in the key above, a drastic improvement within such a short period of time would be unrealistic. Although some students indicated that they had difficulty understanding the test format/instructions for online testing and were not able to ask for assistance, those who moved up a level would have tested very close to the higher level when they started.

In contrast, the TOEIC scores demonstrated more incremental improvement, although some students tested lower on the post-program test than on the pre-program test. This is consistent with data collected in other years. Scores for both the TOEIC Speaking Test and the TOEIC Listening/Reading test can be seen as follows:

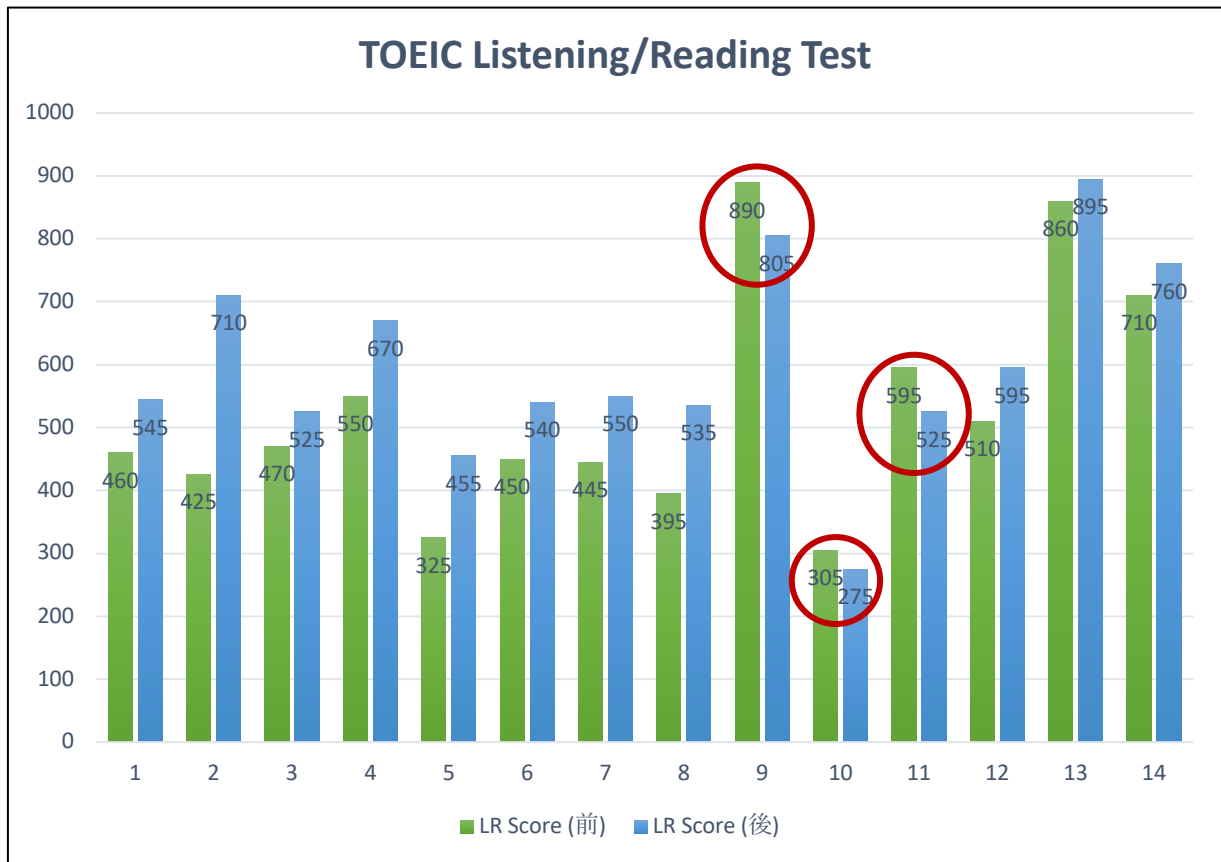


Although most students showed improvement in their speaking scores, two students dropped and two had no change. Only student 11 dropped on both the speaking and listening/reading tests. TOEIC also provided information on student pronunciation and intonation. The results are as follows:



While the majority of students improved their pronunciation, there was a surprising drop in intonation level. It is speculated that this may be due to the students' shift to hearing and mimicking their Australian teachers, perhaps unsuccessfully.

The TOEIC Listening/Reading scores can be seen below for comparison.



Similar to previous years, three students dropped their scores. Student 10 had moved up a level according to the CELT data, suggesting an anomaly in testing conditions. A paper is planned for later in 2022 examining the issues surrounding the use of TOEIC as a metric for language improvement measurement.

### 13. English Language Support for Global Communication

#### English Workshop

From October to February, English Workshop was held online. In order to provide a common discussion topic, the workshops were centered on the SDGs. Each week the workshop addressed a different SDG. Students needed to register for one workshop to receive the session's login information. They could then participate in all subsequent sessions freely, and share the login information with friends. The workshops were open to both students and staff, with permission from the Dean of the Graduate School. regular members included two staff and one graduate student from the Graduate School of Agriculture, Forestry and Fisheries. Two other staff were occasional members, and three graduate students joined one session each. Two other students signed up but did not join any sessions.

# English Workshops

## Fall 2021 SDG Workshops

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### What is an SDG Workshop?

Each online session will last one hour.

First the session leader (Dr. Bo Causer) will introduce the SDG for the session, including information about how it affects Japan and other countries in the world. Then there will be discussion questions given, and participants will discuss topics and issues related to the SDG.

The sessions will be in English. The aim is to create an opportunity to enjoy speaking English while learning about global issues.

### Who can join?

Target members are Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering students, faculty and staff. Undergraduate students and students from other faculties are also welcome. English level is not important, what is important is a willingness to speak English!

### How can I join?

To join, please fill in this form:

<https://forms.gle/bri2yReH5kxhowwF8>

Information about the workshops, including the Zoom link, will be sent to you after you join.



## Schedule

Date	Time	SDG
Fri. Oct. 22	16:00	<b>SDG 1</b> No poverty & <b>2</b> Zero Hunger
Fri. Oct. 29	16:00	<b>SDG 3</b> Good Health & Well-Being
Wed. Nov. 10	16:30	<b>SDG 4</b> Quality Education
Wed. Nov. 17	16:30	<b>SDG 5</b> Gender Equality & <b>10</b> Reduced Inequalities
Wed. Nov. 24	16:30	<b>SDG 6</b> Clean Water & Sanitation
Fri. Dec. 3	11:30	<b>SDG 7</b> Affordable & Clean Energy
Fri. Dec. 10	11:30	<b>SDG 8</b> Decent Work & Economic Growth
Fri. Dec. 17	11:30	<b>SDG 9</b> Industry, Innovation & Infrastructure
Thurs. Jan. 6	16:20	<b>SDG 11</b> Sustainable Cities & Communities
Thurs. Jan. 13	16:20	<b>SDG 12</b> Responsible Consumption & Production
Thurs. Jan. 20	16:20	<b>SDG 13</b> Climate Action
Thurs. Jan. 27	16:20	<b>SDG 14</b> Life Below Water & <b>15</b> Life on Land
Thurs. Feb. 3	16:20	<b>SDG 16</b> Peace, Justice & Strong Institutions & <b>17</b> Partnerships for the Goals

## Courses

GDO supported the teaching of two courses in addition to regular GDO business.

### 1. Academic English for Science & Engineering Professionals (M1)

In 2020 the number of students enrolling in this course jumped considerably, just as the pandemic hit and it became necessary to shift the courses online. This created a problem in that students with very low English ability struggled to complete the assignments. Due to the disparity in ability, these students required much extra support in completing the coursework, and although the course was scheduled to take 8 weeks, a considerable number of students took the full 16 weeks of the semester to complete.

In order to better understand the student needs, in 2021 the course was divided into 4 sections: Semester 1, first 8 weeks high level, first 8 weeks low level, last 8 weeks general level, and 16 weeks general level. All students were free to select which section to join.

The high level students benefitted from being together, and were comfortably able to complete the course work as expected. Some of the students in the low level class had difficulty in understanding the assignments, in addition to having low language ability. Some of those students elected to transfer into the 16 week section. The students remaining in the low level 8 week section struggled with the assignments but were able to complete them. Many of the students in the general level section in the second half of the semester reported choosing that section because they felt they were too busy at the beginning of the semester, and thought they would have more time later. For most of these students, they discovered that they were if anything, busier in the second half of the semester, and had some difficulty picking up a new course part way through the semester. The students who were most successful in completing the assignments were those who joined the 16 week session.

The original schedule for this course was the first 8 weeks of the term, and I had long felt that although the number of teaching hours remained the same whether the course was held over 8 weeks or 16, students didn't have enough time to process what they were learning in the 8 week format. The

2020 class showed problems with the pedagogical design of the course in high resolution. Class size made the management of active learning assignments difficult, both for the instructor and the students. The wide range in English ability paired with a large class size made it difficult to design assignments that were aligned with student ability, and to provide targeted feedback during lesson times. Finally, the 8 week period did not allow enough time for the instructor to provide timely feedback on each assignment, or for students to be able to incorporate the feedback into their next assignment.

By holding several sessions it became clear that although high level students grouped together could successfully complete the assignments in the given time, the 8 week format still limited placed limitations on how much feedback could be given and incorporated into the next assignment. The struggles of the lower level groups strongly indicated that the content of the course was also a challenge and that they could benefit from a course with less independent work. Overall the work produced by the students in the 16 week session tended to be more thoughtful, the student-teacher relationship developed well, and these students came to office hours with questions more often.

On the basis of this experience it was decided that from 2022 there should be two separate courses, one for students with lower English ability, and one for students with higher English ability. Each course should run for 16 weeks, and in order to compliment the overseas study (online and real travel) the lower level course should run in the first semester, to support those studying abroad in summer with improving their ability before the study abroad. The course for higher level students should run in the second semester, to provide an opportunity for students with high English ability returning from abroad in keeping up their acquired level. (While students can take both courses, they can only receive credit for one.)

The course 'Global Science Communication' was developed for students with lower English ability. By looking at how their field of research is communicated to the general public, in English, students will not only learn English vocabulary and expressions used in their field, they will also develop a better understanding of the context of their research, globally.

The course 'Technology in the City' was developed for higher level students. Students can use their existing English ability to look at how their research contributes to the shaping of our human environment, in the process improving their research skills, especially in searching for relevant and accurate information in English. From 2022 these two courses will replace the Academic English course.

## 2. English for Engineering II (Mechanical Systems Engineering B4)

The course from 2020 was repeated in 2021. Students in 9 labs collaborated within their lab to produce their own English-language lab-group webpages. These webpages were run on the free version of Wordpress, were not linked to search engines, and were dismantled after the course ended. On these pages the students wrote about companies related to their research area, and developed a product and business plan for a hypothetical product based on the research activity in their labs.

## Research Support

GDO continued to support research activity through proofreading. There were over 25 requests from students, faculty and office staff for English document checks throughout the year.

## 14. 室員感想文集

令和3年度を振り返って

今年度も、昨年度に引き続き新型コロナの感染拡大で混乱が続いた年でした。今年も GOES 海外研修は実施できず、GOES Home としてオンライン語学研修を実施しました。支援室の活動としては、昨年の実績により、オンラインでの語学研修の効果を実感したうえでの業務であったため、自信をもって学生さんに GOES Home をお勧めすることができたと思います。今や、技術的

には、世界中の学会・シンポジウム等に移動時間を気にすることなく、参加費用は格安で参加できるようになりました。でも、やはり、そういった機会に参加するには、「語学」という壁は存在し、それを乗り越える自信が必要だと思います。GOES Homeに参加した14名の学生は、オンラインで英語を学んだことで、英語力がついたのはもちろんのこと、英語を話すこと、英語でコミュニケーションをとることの自信がついたとの感想が多く聞けたことはとても嬉しいことでした。また実際に海外に行くことができるようになったら、皆さんには、より自信をもって人との交流や学会での発表に取り組んでほしいと願います。

最後に、今年度も研修が無事実施できたことは研究科長をはじめ、研究科教員、事務職員の皆様のご協力のおかげと感謝し、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

特任専門員 橘 まき

We enter the third year of the pandemic stretched and tired. Each wave of new infections, with new disease variants, reminds us of the impossibility of planning ahead. Border closures continue to hobble international collaboration and as a coordinator of international study programs, the scope of what is possible has been severely curtailed. Thankfully, our partners in Australia have been happy to continue providing online language lessons for our students, and thankfully our students have been able to improve their English and broaden their understanding of the world without leaving home. Together we are learning new ways of working and new ways of connecting with each other. Most of us are learning the importance of caring for and protecting each other. We are learning things we'd never imagined we would learn, and out of this challenging time, there are glimmers of hope, small moments of joy. The Black Plague lasted 7 years, and its repercussions were felt for decades afterwards. Our world has been forever changed, and our work now is to carry the good that we have created into the future. Although there is a tendency to turn inwards when we are threatened, it is exactly at that time that we need to look beyond ourselves, and to reach out to others. Whether we are able to physically travel or not, international collaboration is essential, and we will continue to support the efforts of students and faculty in building a stronger, kinder future.

特任助教 Bo Causer, D.Eng.